HOTeye ホットアイ

心と心のかよいあう福祉の情報誌

2012［春］Vol.75

P1 特集 福祉施設訪問
障がい者の可能性を生かし地域生活実現に希望を見出す
社会福祉法人 和　就労継続支援B型事業所
レストラン&カフェ「白壁倶楽部」

P5 福祉団体のトップに聞く!
鳥取県看護協会

P6 チャレンジ福祉の仕事
社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会

P7 福祉人材センター情報
福祉人材センターは、福祉の求職・求人の窓口です

P8 ボランティア・市民活動センター情報
ボランティア・市民活動のひろば
傾聴ボランティアグループ
「よなご傾聴しあわせの会」

P9 ボランティア・市民活動センター情報
高校生と「ふれあい・いきいきサロン」

P11 ことぶき高齢者事業センター情報
地域へとびだす!ことぶき学園卒業生

P12 **いきいきシニア**
地元のお宝探しにレッツゴー
就将の宝散策の会

P13 **鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ**

社会福祉法人 和（なごみ）
就労継続支援B型事業所
レストラン&カフェ「白壁倶楽部」

倉吉市を代表する観光名所「白壁土蔵群・赤瓦」は、
国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された江戸・明治期の建物が玉川沿いに並びます。
赤瓦は、それらの建物を活用した店舗や工房で、
その13号館として昨年オープンしたのが障がい者が就労する「白壁倶楽部」です。
時間がゆっくりと流れる古い街並みの中で、
めざす「町と福祉の共生社会」の実現に向けてゆっくりと歩みはじめています。

障がい者の可能性を生かし地域生活実現に希望を見出す

好評の「白壁ランチ」は日替りで1,180円

白壁倶楽部外観

「白壁倶楽部」は、主体施設である就労継続支援B型事業所「ボン・シャンス」の一体的事業所として、昨年3月に開設されました。

明治41年に旧国立第三銀行倉吉支店として建てられた木造土蔵造り、擬洋風建築の建物をそのまま利用した店舗は、鳥取県第1号の国登録有形文化財に指定された建造物で、レトロな重厚感と落ち着きのあるお洒落なカフェ&レストランとなっています。

レトロな雰囲気が漂う店内

ボン・シャンスは、知的障がいのある利用者の状況に応じ、働く意欲を尊重しながら、社会との結びつきを重視した作業活動で、地域生活が可能になるように支援しています。

作業は、電機部品・刺身パックなどの簡易作業や、農作業・洗濯などの受託作業、また〝毎日食べても飽きがこない〟と好評を得ている自主製品の日替わり「ボン・シャンス弁当」の製造・販売・配達に、約30名の利用者が取り組んでいます。

その弁当に使われている飯米コシヒカリは、農業班が作った自家製で、野菜類もできるだけ自主作業で作られたものを使用しています。そして、安心・安全なそれらの食材は、白壁倶楽部でも使用され、美味しい洋食メニューとなってお客様に提供されています。

初めての店での接客に戸惑いながらも積極的に

白壁倶楽部では、現在5名の利用者が午前10時から午後4時まで勤務し、フロア係の3名がケーキ・飲み物作りから箸入れ、おしぼり作りを、そして2名が厨房係として食器洗いなどを職員とともにしています。

フロア係は、基本的にランチタイムをはさむ午前と午後のカフェタイムに配膳・接客をしていますが、状況に応じてランチタイムも配膳するなど、観光客や地域の方々と直接ふれあいながら仕事をしています。

ボン・シャンスで働いていたフロア係の足羽里穂さんは「初めて店員として施設外に出ました。最初はスープや水を運ぶのも難しかったけど、もっと続けていきたい。今度はケーキを作ってみたい」と話します。

フロア係の足羽里穂さん

同じく、洗濯を担当していた井上正美さんは「豆をひいてコーヒーを入

職員と一緒になって働く利用者たち

豆の焙煎から行うコーヒー入れ

フロア係の井上正美さん

れたり、ランチの手伝いをしたりしていますが、難しいけどやり甲斐があります。今の仕事がしっかりできるようになって、お客さんの注文が取れるようになりたい」と、二人とも意欲を感じさせます。

ボン・シャンスのもう一つの一体的事業所に、簡易作業や、おから入り菓子やクッキーなど、人気のある自主製品を作る「もなみ」があります。

そのもなみで菓子作りをしていた森永麻友さんは「挨拶、掃除、洗い物など大変だけど、いろいろな人にも会えて積極的になってきました。できれば料理ができるようになりたい」と、自らも感じているように意欲的な姿勢に変わってきました。

フロア係の森永麻友さん

対等な関係で「表」で働き能力を生かす場がなかった

厨房で食器洗いをしている西川敏則さんは「仕事が楽しく、責任も感じながら働いています。店の自慢のラーメンが作ってみたいです」と笑顔を見せます。

厨房作業担当の西川敏則さん

そのラーメンは、「町と福祉の共生社会」をめざす取り組みに長年かかわってきた、白壁倶楽部支配人の深田哲士さんこだわりの逸品で、あっさりとしながらコクのある「牛骨ラーメン」（600円）です。

深田さんは「福祉と町を近づけ、障がい者が働ける職場、誰もがそうであるように主人公として働ける普通の職場づくり」の拡大を図ってきました。

白壁倶楽部で働く5人が一様に積極的になったことに対して「開所して半年でみんなが進歩しています。今まで能力を生かし、また伸ばす場がなかったんです」と深田さん。「今は注文を取ることは職員の担当ですが、彼女たちがオーダーを取ろうとするんですよ」と、目を細めます。

支配人の深田哲士さん

障がい者が、町・住民と持ちつ持たれつの対等な関係の中で、下働きではなく表に出て働ける、そんな地域での共生は、施設の姿勢と方向性、そして職員と責任者で変えることができると深田さん。ここは「自分が取り組んできたことの集大成になります」と話します。

地域との関係を深めながら一般就労の道を探る

近年、自閉症の利用者が増加傾向にあり、また利用者の家族、本人ともに就労への欲求が高いことからも、自閉症への理解を深め、障がい者の地域生活実現を押し進めなくてはいけないと社会福祉法人「和（なごみ）」の常務理事で、ボン・シャンスと関係事業所の施設長である八渡和

接客をする足羽里穂さん

仁さんは話します。

「就労継続支援事業所」は、一般企業への就職が困難な障がい者に、就労の機会を提供するもので、障がい者と雇用契約を結び、原則として最低賃金を保障するしくみの「A型」と、利用者と雇用契約を結ばず、授産施設や作業所で障がいに応じて働きながら工賃を支払う「B型」があります。

施設長の八渡和仁さん

八渡施設長は、白壁倶楽部を施設から一般就労に向けた段階的位置づけと捉えていますが、「積極的な経営努力で、より多くの工賃が出せるよう努め、将来的には利用者を雇用できるよう、みんなで盛り上げていきたい」と話します。

そして「障がい者の地域生活支援において、環境的な整備が遅れており、責任問題など多くのリスクがありますが、走りながら考えています」と、県内初ともいえる事業展開に果敢に取り組む姿勢です。

「利用者はスタッフに助けられながらも〝次はこんなことがしたい〟という意欲に満ちています」と話す八渡施設長は、そんな利用者のために「仕事の質を上げ、自分の仕事に自信が持てること」を念頭に置きます。

そのためにも、白壁倶楽部の知名度と魅力を高め、お客様に広く支持される店づくりが重要だと捉えています。

オープン当初から始めた、毎週金曜日夜の「生演奏」、毎月第2日曜日の「歌声喫茶」、県内作家の作品を展示する「ミニギャラリー」のほか、グループの発表会の場など、白壁倶楽部を多様な集いの場として提供するなど、地域と人との結びつきを大切にした仕掛けづくりで「店づくり」に取り組んでいます。

また昨年、赤瓦で結婚式と花嫁行列を行い、白壁倶楽部で披露宴を開催するなど、「町との関係を深める手立て」にも苦心し、にぎわいづくり、まちづくりにも参画しています。

「開所して半年、経営努力が問われるのは、これからが本番です」と八渡施設長は気を引き締めるように話します。

ミニギャラリー

ボン・シャンス

ボン・シャンス弁当を作る利用者たち

おからクッキーを作る利用者

毎週金曜日の夜に開催される「生演奏」

[概要]
- ●所在地／倉吉市魚町2540番地
- ●開設日／平成23年3月1日
- ●運営主体／社会福祉法人　和（なごみ）
- ●職員数／7名
- ●定員／10名
- ●利用相談窓口／当該施設（社会福祉法人　和）

レストラン&カフェ「白壁倶楽部」
TEL.0858-24-5753
営業時間／10:00～21:00
定休日／毎週水曜日
E-mail：shirakabeclub@peach.ocn.ne.jp

福祉団体のトップに聞く！

分化が進み専門性が高まる看護職

鳥取県看護協会　虎井　佐恵子　会長

看護師は、医療・保健・福祉などの場で、医師等が患者を診療する際の補助から、病気や障害を持つ人々の日常生活における援助や、疾病の予防や健康の維持増進を図る医療従事者です。

また、医療の高度化や看護職の地位の向上などを背景に、実地のキャリアと継続的な卒後教育を経て、専門分野に関する認定を受けた認定看護師、専門看護師として看護の提供を行ったり、保健師、助産師など関連資格の取得や、看護管理者や訪問看護師、看護教員、看護研究者など、職務内容や場を変えて様々な形で看護に関わっています。

そのように多様な看護の職能集団として、鳥取県内の看護師の質の向上を図る鳥取県看護協会の虎井佐恵子会長にお話しを伺いました。

役割が拡大する看護師と協会

医師不足と疲弊、医療難民など医療現場は、負のスパイラルのように問題を抱えている中で、認定および専門看護師に加え、「特定看護師（仮称）」の制度化・法令化が議論されています。特定の分野ではありながら医療処置を看護師が行なえるようになるなど、看護師の医療分野での役割の拡大が求められています」と虎井会長は話します。

昨年、会長に就任したばかりですが、公益社団法人への移行を進める中で「看護師の資質を上げることは元より、協会はもっと目に見える形で会員のためにならなければいけません」と、東・中・西部の交流会の開催など、会員の声に耳を傾けることで社会ニーズに応え、県民の理解を得ていきたいと虎井会長は考えています。

「看護師は、24時間患者に寄り添う職種で、患者に最も近く、チーム医療の中でも情報を最もよく理解しています」と話す虎井会長は、看護師に求められる最も必要な資質は「人間性」だと言います。

人が好きで看護にやり甲斐を感じられる人、そんなやさしさがある人は、向上心もあり、看護のために常に学習が必要だと分かっています。

医療を支える職業人として常に学びを

「叱られたことがない、家庭や学校以外で人と接した経験が少ない看護師が増えてきました」と虎井会長。そのため、卒後教育の新人育成研修の努力義務化の必要性をはじめ、専門性を高めるための様々な教育研修、認定看護管理者研修など、協会が提供するキャリアに応じた学びの場を活用し、自らの資質向上に努めてほしいと話します。

また、幅広い参加資格の教育研修もあり、介護分野でも行える医療的処置が広がっていることからも、介護関係者の方々も受講していただきたいとも話します。

協会は鳥取県の委託を受け「ナースセンター」事業にも取り組んでいます。一昔前は、身を挺した奉仕的な捉え方もされていた看護師ですが、より良い医療環境の維持のため、働き続けられる職場、また、看護師を辞めてしまわない職場づくりなど、看護職の労働環境の改善にも力を注いでいます。

「人は人の役に立つことを喜びとします。看護は苦しいことも多いですが喜びも多くあります」と虎井会長は話します。

そして「亡くなった方々から〝同じ患者のために自分を役立ててくれ〟という私たちへのメッセージが聞こえます。それを活かしていくことが職業人としての責務ではないでしょうか」と、虎井会長の人間味が伺える発言は、看護師の方、また看護師をめざしている方へのメッセージにも聞こえます。

そして「看護師は良い仕事だと、やっとそう思えるようになりました」と、やさしい笑顔で話します。

訪問介護職員養成講習会修了式にて

チャレンジ福祉の仕事 Challenge

福祉分野の質的変化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応えて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。

地域福祉を支える事務方として。

（社福）鳥取市社会福祉協議会
総務企画課財務係
主事 安養寺　美香 さん

安養寺美香さんは、鳥取大学の地域教育学科幼児教育コースを卒業し、幼稚園教諭特種免許状と保育士資格を取得。昨年春から鳥取市社会福祉協議会に勤務しています。

保育士である母の姿を見ながら、また近所の子どもたちと遊ぶことに喜びを抱き、そして半身不随の祖母の介護の手伝いをするなど、中学生の頃から福祉の仕事をおぼろにイメージしていた安養寺さんは、ごく自然に福祉への道を選択したと話します。

しかし、大学時代の保育実習で、多くの子どもたちをまとめることの難しさを実感したという安養寺さんは、「自分は現場向きではない」と思いながらも「福祉にたずさわっていたい」と望んでいました。

安養寺さんの現在の仕事は、総務企画課財務係という事務職で、主に地域福祉や介護保険関係などの会計処理全般を受け持っており、数字を見ながら事業の動きが確認できたり、逆に全体が見渡せる仕事にあり、部署が替わっても役立つ職場に就いていると言えます。

事務方であっても、老人クラブの運動会や小学校福祉体験事業などにスタッフとして加わることもあります。「今はまだ社協の事業を理解し切れていません」と話す安養寺さんですが、それらにも積極的に取り組みながら「小学生が体験を通して、高齢者の実際を少しでも認識でき、思いやりのある人間に育てば嬉しい」と話します。

今は側面的に地域福祉にたずさわりながら、「将来的には地域の方々と関わり合える地域福祉の部署でも仕事がしたい」と、秘めた情熱を感じさせる安養寺さんです。

自分らしいアプローチを求めて。

（社福）鳥取市社会福祉協議会
鹿野町総合福祉センター介護支援係
介護職員 西尾　政一 さん

西尾政一さんは鳥取環境大学を卒業後、JAの金融部門で働いていましたが、「早い内に将来的に役立つ専門的な知識や国家資格を取得しておきたい」との想いから、群馬県の福祉専門学校に改めて入学し、介護福祉士の資格を取得後の昨年春から、鳥取市社会福祉協議会鹿野町総合福祉センターに勤務しています。

両親が共働きであったことから、祖父母に育てられた印象が強い西尾さんは、その祖母が福祉施設に入所して暮らす現実を見るなど、高齢化社会を肌で感じていたことから、福祉職場への道を選んだと話します。

鳥取市各所に設置されている総合福祉センターでは、さまざまな事業で地域福祉の充実に取り組んでいます。そのなかで、西尾さんはデイサービスセンターで地域の高齢者の在宅生活を支援しています。

学校で学んだ範囲だけでは実際の福祉現場は対応しきれないと話す西尾さんは、「誠意をもって支援した分だけ〝ありがとう〟が返ってくる」と、その喜びを糧として、先輩方に教えられながら励んでいます。

そのような中で〝家に帰りたい〟という利用者の声を幾度も聞く西尾さんは、自分に置き換えても「住み慣れた地域で暮らしていけることが一番だと思う」と話します。

自宅とデイサービス、またショートステイの行き来で居宅介護が継続でき、その支援をする。それは西尾さんの理想であり、やり甲斐になっているところです。

そんな在宅福祉を実現するためにも、福祉人として歩みながら、ケアマネジャーの資格を取得したいと、目標をもって西尾さんは頑張っています。

福祉人材センターは、福祉の求職・求人の窓口です

福祉人材センターでは、福祉施設などへ就職を希望する方と福祉人材を必要としている事業所との橋渡しをしています。

あなたの力になります！

福祉人材センターでは、求職・求人の相談をお受けしています。

今年度も多くの方が福祉施設へ就職されています。福祉職場で勤務経験を積まれた方、資格はあるが勤務にブランクをお持ちの方、未経験の方などさまざまです。

福祉人材センターは、就職希望の方、求人事業所の御希望に添うため、今後もよりよいサポートを目指します。

求職・求人のご相談はこちらまで

電話（0857）59-6336
受付日／月曜日～金曜日
時間／午前8時30分～午後5時
※祝日・年末年始はお休みです。
お気軽に御相談ください。

就職された方の声

保育士 50代 女性

毎日が大変ですが、とにかく子どもがかわいく、元気をもらえます。子どもの成長を感じたとき、充実感でいっぱいになります。

介護士 40代 女性

福祉人材センターに就職相談をし、抱いていた不安も少しずつほぐれました。今の職場では、日々勉強ですが、利用者さんに喜んでもらえた瞬間が何よりもうれしいです。

一般の方はもちろん、学生の方の御相談もお受けしています。

福祉の求人情報

福祉人材センターでは、福祉人材の無料職業紹介を行っております。福祉職場に就職を希望されている方への仕事や資格取得方法の相談を行っておりますので、お申込み・お問い合せは福祉人材センターまでお願いします。

求人票番号	●種別 ●求人職種 ●雇用形態	勤務地	●雇用開始日 ●賃金 ●夜勤・宿直	●募集人数 ●年齢 ●学歴	資格／◎必須 ○いずれか必須 △望む	その他資格／◎必須 ○いずれか必須 △望む
1202-00007	●児童（保育所） ●保育士 ●常勤（正職員以外）	倉吉市	●2012年4月1日～ ●日給7,800円～8,000円 ●夜勤なし・宿直なし	●1人 ●不問 ●指定あり：短大卒以上	◎保育士	
1201-00047	●高齢者（介護保険施設） ●保育士 ●常勤（正職員以外）	米子市	●随時 ●時給900円～ ●夜勤なし・宿直なし	●1人 ●不問 ●指定あり：専門学校卒以上	◎保育士 △幼稚園教諭	△普通自動車免許
1201-00034	●障害者（複合） ●相談・支援・指導員 ●正職員	南部町	●随時 ●月給130,000円～130,000円 ●夜勤なし・宿直なし	●1人 ●不問 ●不問	◎その他	
1201-00025	●高齢者（介護保険施設） ●看護職 ●正職員	智頭町	●随時 ●月給210,000円～ ●夜勤なし・宿直なし	●2人 ●不問 ●不問	◎看護師	
1201-00018	●障害者（複合） ●介護職 ●常勤（正職員以外）	境港市	●随時 ●時給940円～950円 ●夜勤あり・宿直なし	●1人 ●指定あり：18歳～ ●不問	不問	
1201-00010	●高齢者（介護保険施設以外） ●介護職 ●正職員	鳥取市	●2012年3月5日～ ●月給130,000円～130,000円 ●夜勤あり・宿直なし	●8人 ●不問 ●不問	△介護福祉士 △介護職員基礎研修	◎普通自動車免許
1201-00003	●高齢者（複合） ●介護支援専門員 ●正職員	鳥取市	●随時 ●月給200,000円～250,000円 ●夜勤なし・宿直なし	●1人 ●不問 ●不問	◎介護支援専門員 ◎主任介護支援専門員取得見込	◎普通自動車免許
1112-00020	●高齢者（介護保険施設） ●セラピスト ●正職員	日野町	●随時 ●月給240,000円～500,000円 ●夜勤なし・宿直なし	●2人 ●不問 ●不問	◎言語聴覚士	◎普通自動車免許
1112-00014	●高齢者（介護保険施設） ●看護職 ●正職員	湯梨浜町	●随時 ●月給195,000円～347,000円 ●夜勤あり・宿直なし	●2人 ●不問 ●指定あり：専門学校卒以上	○看護師 ○准看護師	
1112-00001	●社会福祉協議会 ●ホームヘルパー ●非常勤・パート	岩美町	●随時 ●時給1,020円～1,380円 ●夜勤なし・宿直なし	●1人 ●不問 ●不問	◎ヘルパー2級	◎普通自動車免許

平成24年2月15日現在

ボランティア・市民活動のひろば

傾聴ボランティアグループ
「よなご傾聴しあわせの会」

鳥取県内に約700のボランティア団体があり、様々な分野（福祉、教育・文化、まちづくり、環境、災害救援、国際協力、子どもの育成など）で社会の多様化したニーズに応える重要な役割を担っています。その中でも今年度は、高齢者や障がい者に対する生活支援を行なっている団体の活動を紹介します。

左／稲田勝江さん　右／吉持菊江さん

人の話を聞くことは、いつまでも学びとなる

『傾聴』は、人間関係づくりの基本として、相手の話をよく聞き、人を理解するためのコミュニケーション技能などにより、能力開発における「傾聴力」としても注目されていますが、傾聴ボランティア（以下：傾聴ボラ）はそれとは異なります。

傾聴ボラは、「こちらの聞きたいこと」を「聞く」（Hear）のではなく、「相手の言いたいこと、伝えたいこと、願っていること」を受容的・共感的に『聴く』（Active Listening）ことであり、耳と目そして思いやりの心で相手の話を真剣に聴き、高齢者などの精神的な健康維持・回復の手助けをするものです。

「よなご傾聴しあわせの会」は、代表である岡田浩さんが「まだまだ働けるのに、若い世代の負担にはなりたくない」と思っていた定年退職時に、傾聴ボラの存在を知ったことから始まりました。

それまで、傾聴ボラの空白地帯と言われていた鳥取県ですが、岡田さんが平成18年から県外の養成講座でその技法や技能を習得し、自らの力で福祉施設の理解を得ながら、地道に活動を続けることでメンバーも増えてきました。

会員数は現在30名以上となり、米子市内の老人ホームやデイサービスセンター等3施設を毎月各2回3・4名で訪問し、傾聴ボラ活動を行っています。

カウンセリングのように、専門職が問題解決に向けての適切なアドバイスを行うのではなく、傾聴ボラは通常、アドバイスはしません。

相手の話を受け止めて、相手がさらに多くのことを話せるように聴くだけで、話し手が悩んでいることに自ら答えを見いだせるようたすけます。

「傾聴ボラには講習を受けてからとなっていますが、特別な資格は必要ありません。単に話を聴くだけでなく、信頼関係を前提として、話を否定することなく、相手の気持ちを『まごころ』で聴いて受け止めることが大切です」と岡田さんはやさしい口調で話します。

代表の岡田浩さん

それは、傾聴ボラは『スキルを習うより心を習え』と言うように、「人の心の丈を安心して話せる相手」にならなければいけないということなのです。

会員の稲田勝江さんと吉持菊江さんは、傾聴ボラ活動を始めて約3年。稲田さんは「人と出会える傾聴ボラは、自分を制し律する機会となり、フラットな自分になれます」と。吉持さんは「心を開いて話していただける喜びとともに、いつも新しい出会いが勉強になります」とお二人とも、人との出会いがいつも学びの場になると感じています。

「悩みを溜め込んで事件に至るケースもあります。傾聴ボラは、高齢者や施設訪問に限らず、若年層や個人訪問にもシフトしていくことが求められています。そのためにも福祉関係者に広く認知していただき、活動の場を拓いて欲しい」と岡田さんは、これからの傾聴ボラを展望しています。

［問合せ先］
よなご傾聴しあわせの会
代表：岡田　浩
米子市東福原3丁目6-36
電話0859-34-2552

高校生と「ふれあい・いきいきサロン」

この事業は、高校生がふれあい・いきいきサロンなどの地域福祉活動の企画・運営を通して、地域の高齢者、障がい児(者)等と継続的に関わり、交流を図ることで、地域福祉やボランティア活動への理解と関心を高め、ともに支え合い、ともに生きる喜びを体験し、人に対する思いやりやコミュニケーション能力を身につけるなど、社会連帯を基本とした精神を養うとともに、豊かな人間性の確立を図ることを目的にしています。

平成21年度から今年度までの3カ年間、岩美高等学校を指定校として事業を進めてきました。その取り組みについて今年度の活動を中心にまとめました。

意気揚々と田後かもめサロンへ向かう高校生

岩美高等学校は、「山陰海岸ジオパーク」に認定された美しい景観を持つ浦富海岸エリアを有する岩美町にあります。

岩美高福祉類型の2年生30名が2班にわかれ、岩美町内の「ふれあい・いきいきサロン」を体験し、サロンの参加と企画を行いました。「ふれあい・いきいきサロン」は、ご近所の仲間を作ったり、閉じこもりを防ぎ社会とつながる機会になったり、ゲームや体操を行うことで健康を維持するなど、さまざまな効果があります。それぞれのサロンで内容は異なりますが、「無理なく、楽しく」をモットーに岩美町内では現在33カ所のサロンが実施されています。

今年度は、「田後(たじり)かもめサロン」と「長谷(ながたに)女性やまびこ会」の2つのサロンに高校生を受け入れていただきました。10月から12月に月1回、計3回のサロン体験を計画。1回目はサロンに参加させてもらう。2回目以降は高校生がサロンの企画と実践をするという目標で事業を開始しました。

「サロン」ってどんなところ?

10月6日、初めてのサロン訪問。岩美町田後地区の「田後かもめサロン」へ向かった15名。田後かもめサロンは18名で構成され、月1回、田後コミュニティセンターに参加者が集まり、体を使ったレクリエーション、カラオケ、時には食事を作ってみんなで食べるなどさまざまな活動を行っています。

移動中のバスの中ではワイワイと賑やかだった高校生たちも、サロンに到着すると緊張した面持ちに。サロン側も初めての受け入れに戸惑う様子でしたが、そこは人生経験の違い?!孫のような高校生達をぐいぐいリード。高校生もサロンの方に教わった銭太鼓体操を踊る姿はぎこちないものでしたが、ゲームになると一変。笑顔が出て、一気に緊張がほぐれていきました。

11月10日。2回目となるサロン体験では、高校生が考えたレクリエーションを実施。この日を楽しみにしていた高校生もいて、やる気は十分です。「この前も来てくれたお兄ちゃんだなぁ」「楽しみに待っとったで」という声を掛けられ、前回より緊張はほぐれている様子。進行役の高校生がレクリエーションの説明をすると、サロンの参加者から「もうちょっと大きい声で言って、聞こえんで」という声も。少々押され気味の高校生も、時間が経つにつれて参加者とも和み、自然な笑顔が溢れるほどになりました。

▲今日もよろしくお願いします!(田後かもめサロン)

◀高校生の企画した神経衰弱ゲーム(長谷女性やまびこ会)

また、高校生が考えてきた脳トレクイズは思った以上にあっさり解かれてしまい、時間が余ってしまうハプニングも。自分達が思い描いていた「高齢者」のイメージを覆される体験となったようです。

帰り際には「これから寒くなるけど、風邪ひかんように来月も待っとるで」と声を掛けられ、お互い元気で12月の再会を誓う姿が印象的でした。

サロンにサンタクロースがやってきた!

12月8日。3回目で最終回のサロン。高校生は準備したサンタクロースの帽子やトナカイの飾りを頭につけ意気揚々とサロンへ向かいます。11月に約束したとおり、みなさん元気にサロンに参加されていました。

前回のレクリエーションの反省点を踏まえ、今回の脳トレは難問を用意してきたという高校生。しかし今回もあっさりと解かれてしまったようでした。

レクリエーションも終わり、この日のメインイベント。男女に分かれ、ハンドベルでクリスマスにちなんだ演奏を行いました。放課後に練習したその曲は「一生懸命さ」と「温かさ」が伝わる音色でした。

▲ハンドベルでジングルベル♪(長谷女性やまびこ会)

▲年賀状で新年のご挨拶を

◀自然に笑顔が溢れます(田後かもめサロン)

お互い顔を覚えてきた頃に最後のサロン体験となってしまい、別れの際、感極まって涙ぐむ姿も見られ、「また会いにきてね」「どこかで会ったら声を掛けて」と別れを惜しんでいました。

体験を終えた生徒達から「お礼状を出そう」という声があがり、「それなら季節的にも年賀状にしよう」と、その後の「つながり」にも積極的な今年度の生徒達。普段はメールで新年の挨拶をしているだけに、苦労しつつも年賀状を作成したようです。

サロンの方との会話の中で、このような季節の行事を取り入れることが少なくなっていると感じとった生徒たちの工夫ではなかったでしょうか。

地域の「絆」・寄り添う姿

毎回高校生を温かく迎えてくださったサロン。参加者同士の会話の中で、「あの人休みだけど大丈夫かな?」「私、帰りに顔を見に行ってみるわ」など、みなさんが声を掛け合い、お互いを気遣っている姿を見て、地域の人々の絆を感じた高校生もいました。

また、企画したレクリエーションが、足が痛くて動けない方にとって参加しにくいものであったことに気づき、次回は誰でも参加できるものにしたり、言葉だけでなく、手に触れながら話すなどコミュニケーションのとり方を変えたりするなど、回を重ねるごとによりよい体験にしようとする姿がみられました。

サロンでの出会いが始まり

岩美高福祉類型の生徒は、将来福祉の職場で働くことを目標にしています。サロンを体験する前に、老人福祉施設での実習で働くことの厳しさを感じたようで、福祉への道をあきらめかけていた生徒もいたそうです。しかし、サロンの方とのふれあいの中で、「自分達のことを待ってくださっている」「自分達にもやれることがある」と感じ、将来の夢へ再チャレンジする決意をした生徒もいたそうです。また、体験前の高齢者のイメージは「弱々しい」「動けない」というものでしたが、体験後は「元気」「優しい」「物知り」というイメージへと変化しています。

3年間、本事業を進めるにあたって受け入れサロンの調整をしていただいた岩美町社会福祉協議会の湊会長は、「高校生とサロンの方の会話がおもしろい。この事業は、高校生にも受け入れ側のサロンにもプラスになることがたくさんある。サロン体験で終わりではなく、ここでの出会いが始まりだと思ってほしい」と話されました。

3年間をふり返って

この体験を通じて、高校生は人に対する思いやりやコミュニケーションの重要性に気づくことにつながりました。また、レクリエーションやちょっとしたプレゼント等、高校生が自ら企画しそれを実践することにより、自分たちでもできることに気づき、自信がついたことも本事業の成果となりました。

サロンが地域とのつながりを大切にし、サロン参加者も「絆」を大切にしながら生活していること。「みんながみんなの役に立つ」ことの共感が得られたのではないでしょうか。

岩美高等学校では、近くの浦富海岸の一斉清掃を地域貢献の場としています。また、このサロン体験を通じて地域に目を向け、社会のなかで「ともに支え合い」「ともに生きている」ことを考える機会になったのではないかと考えます。

本事業で岩美町内の6カ所のサロンに高校生を受け入れていただきました。最後になりましたが、感謝申し上げるとともに、今後も「福祉の心」を育てる取り組みとして継続していきたいと考えています。

長谷女性やまびこ会のみなさんと記念撮影

地域へとびだす!ことぶき学園卒業生

「ことぶき学園」は、高齢者の生きがいと健康づくりを推進するとともに、郷土史、園芸、健康づくりなどの専門的な知識や技術の習得により、社会活動の促進と地域の指導者養成を目的に開講してきました。

残念ながら、平成21年に卒業の18回生が最後となりましたが、学園で学んだことを活かし、地域活動、ボランティア活動に取り組んでいる卒業生や地域のグループを紹介します。

意気込んで活動しても長続きしない

今回紹介するのは、鳥取県高齢者大学校「ことぶき学園」の鳥取校園芸科第17回卒業生、18回生卒業生を中心に活動しているグループです。

まとめ役の寺尾一男さん

実際に活動を開始したのは、卒業してしばらくたってから。意気込んで活動をしても長続きしないから、自分達のペースで頑張ろうとあえてグループ名をつけていません。

活動については、まとめ役の寺尾一男さんが中心となり連絡を取り、活動日の調整を行っています。

松の剪定

園芸科では、松の剪定実習を施設にでかけて行っていました。しかし『ことぶき学園』が18回生をもって終了してしまい、今まで実習先としてお世話になった活動先から「松の手入れに困っている誰かお願いできないか」との声があり、皆で相談し自分達で引き受けたのが、始まりとなりました。

作業は松枯れした枝を落とし、きれいに伸びるように先端の芽を摘み、講師の尾崎先生に教えていただいたことを思い出しながら作業を進めます。今年度は鳥取県警察学校(鳥取市伏野)の松の剪定を行いました。

鳥取県警察学校での松の剪定を終えて

松の剪定作業風景

お世話になった学び舎に飾る門松づくり

私たち園芸科は県立福祉人材研修センター多目的工作室(鳥取市伏野)を学び舎として剪定の基礎知識を学んできました。

学んだことを活かして何かできないかと、センター正面玄関に飾る門松づくりを平成20年から続けています。

園芸科での実習で、小さな門松づくりをしたことはありますが、大きな門松づくりには四苦八苦。試行錯誤しながら、苦労して作成しました。

4年目となった今年。12月25日から山陰地方にも強い寒気が入り込み、発達した低気圧と強い冬型の気圧配置の影響で日本海側を中心に大雪となる荒れた天気となりました。作業を行った26日も前日からの積雪が22センチ、荒れた天気となりましたが、予定どおり作業を行いました。

この日は、5人(寺尾、山田、土井、中村、長谷川)が門松づくりに取り組み、前もって切りだしておいた竹と松は雪の中に埋もれていて、掘り起こし作業から開始しました。その後が更に難関の土探し。一面雪に覆われたグラウンドから作業用の土を掘り出す場所を探すのにひと苦労しました。

苦労したかいがあり、立派な門松が完成しました。

出来上がった門松

出合い・ふれあい・助け合い

松の剪定、門松づくりの作業に加え、事前の幹事会、7、8月に暑気払い、12月に忘年会を開催し、同期生の懇親会として情報交換をしながら連携を密に、和気あいあいと楽しんでいます。

「出合い・ふれあい・助け合い」をモットーに、今後も引き続き自分達のペースで学んだことを活かせる場所を見つけて、活動を続けていきたいと意欲満々のグループです。

いきいきシニア

ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を
同世代のことぶきレポーターが取材をします。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている人など高齢者の魅力を余すことなくご紹介します。

地元のお宝探しにレッツゴー

就将の宝散策の会

福島和枝会長

「就将の宝散策の会」は、2010年に米子市教育委員会と市民有志が発行した「よなごの宝八十八選」の準備委員のスタッフとして就将校区内の宝を調査したのがきっかけとなり「もう一度地域を見つめ直し、まだ眠っている宝を探したい」との思いで、福島和枝会長以下10名で、平成23年4月に発足しました。

就将校区は米子市でも多くの遺跡・遺構が残っている場所で、たくさんの宝があり、校区民が一丸となって「散策の会」を盛り上げておられます。

今回は私も参加した第1回についてレポートします。

初回からたくさんの方々が参加。まず、公民館で出発式を行い、ストレッチ体操をしてスタートです。

最初に、『感応寺』（米子城主中村一忠公の墓所）を見学して、次に『総泉寺』（「出雲街道の砦・米子城主池田由成の霊を祭る」、「民話『キツネと狸の化かしあい』」）で住職さんから境内のことの説明を受けました。次に『日御碕神社』（平安時代の天長年間〈824年～833年〉に出雲の日御碕神社を勧請）を見学しました。この神社の祭神は、アマテラス大神・スサノオノ尊など多くの神を祭り、鳥取県西部では、五箇所あるそうです。

最後に、『出雲番所跡・奥陰田方面』へと歩き、約3時間かけて全行程4キロを歩き、12時頃公民館に到着して解散となりました。

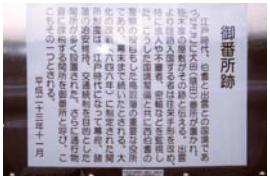
参加者に感想を聞きました。「地元のお宝を探すのに今までは、大変でしたが、このように歩きながら観ると観えなかった所が観えてきた。」「健康と住民の交流、そして、地元の魅力が再発見できた。本当に参加して良かったです。これからも続けてください。」との言葉がありました。

就将公民館前で行われた開会式

福島会長は「よなご88探訪会とのつながりも大切にして、就将カラーで、実施したいと意欲満々でやっています。」といわれました。

地域の宝に説明板設置

地域の宝に「鳥取地域力（鳥取力）を高める公民館活性化モデル事業補助金」を得て説明板が設置されました。11月12日（土）に設置のお披露目式が行われ、「地域の古老の方に喜んでもらえた。」とうれしくなりました。



陰田町に設置された説明板

就将の宝散策の会経過報告

第1回／4月16日
（民話で訪ねる出雲街道）
第2回／5月22日
（雨天のため座学）
第3回／6月23日
（就将の三寺物語）
第4回／7月17日
（昔懐かし祇園さん加茂さん）
第5回／9月10日
（開運パワーの地蔵尊参り）
第6回／10月16日
（石垣が語り伝える米子城パートⅡ）
第7回／11月12日
（陰田ルーツを探る）
第8回／12月17日
（彫刻のある遊歩道）

＊毎回副題をつけ、そして、解説付きで散策を楽しんでいます。
＊参加者は常に50～60名

感応寺

地元の方の案内

執筆協力者の紹介

岡田　信行さん（米子市）

岡田さんは若い頃から赤十字奉仕団を中心に様々なボランティア活動に携わってこられました。会報などで記事を書く機会も多いそうです。

また、米子市下町ボランティアや妻木晩田遺跡ガイドもされ、地域の歴史を伝える活動をされています。

「今回の取材を通じて、〝意欲〟と〝継続〟の大切さを再認識した」と語られました。

第22回(平成24年度)因伯シルバー大会 出場者募集

スポーツや文化活動を通して、鳥取県内の高齢者同士の交流の輪を広め、健康と仲間づくり、生きがいづくりを促進するために、因伯シルバー大会を開催します。なお、本大会は平成24年10月に宮城県で開催される第25回全国健康福祉祭宮城･仙台大会(ねんりんピック宮城･仙台2012)の派遣選手の選考会を兼ねています。

◆**応募資格**／鳥取県に在住する60歳以上の方。(昭和28年4月1日以前生まれの方)
◆**競　　技**／全11種目(卓球、テニス、ソフトテニス、ソフトボール、ゲートボール、ペタンク、ゴルフ、弓道、グラウンド･ゴルフ、囲碁、将棋)
◆**開催日時**／平成24年5月中旬　※種目によって日程が異なります。
◆**開催場所**／鳥取県中部地区を中心に開催予定
◆**募集方法**／所定の参加申込用紙に必要事項を記入し、FAX又は郵送で申込ください。
◆**募集締切**／平成24年4月20日

また、ねんりんピック宮城･仙台2012には、次の競技種目についても選手派遣を行う予定です。
種目ごとに、選考方法が異なりますので、詳細については、各競技団体事務局へお問い合わせください。

種　　目	推薦依頼競技団体	競技方法
太極拳	鳥取県武術太極拳連盟	チーム対抗(集団演武)
ソフトバレーボール	鳥取県ソフトバレーボール連盟	男女混合の団体戦
サッカー	鳥取県サッカー協会	リーグ戦(前･後半各20分)
水泳	鳥取県マスターズ水泳協会	団体戦、個人戦
ダンススポーツ	日本ボールルームダンス連盟西部総局鳥取県支局	団体戦、個人戦

ねんりんピック宮城･仙台2012　俳句交流大会(募集句)作品募集

宮城県塩竈市で、平成24年10月14日(日)に俳句交流大会が開催されます。事前に作品を広く募集されていますので、ふるってご応募ください。

■**年齢区分**／ア 60歳以上(昭和28年4月1日以前に生まれた人)
　　イ 60歳未満(昭和28年4月2日以降に生まれた人)
■**受付期間**／平成24年4月2日(月)～5月31日(木)　※当日消印有効
　　※詳しい募集要項については、下記へご確認ください。
■**申込･問合先**
〒985-0052　宮城県塩竈市本町1番1号(壱番館2階)
塩竈市役所健康福祉部長寿社会課内
ねんりんピック宮城･仙台2012塩竈市実行員会事務局
電話 022-364-1204　FAX 022-366-7167
http://www.city.shiogama.miyagi.jp

大会マスコット
むすび丸

社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

ホームページでも内容を紹介しています。
http://www.fukushihoken.co.jp

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

◆加入対象は、社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。
全国社会福祉協議会のスケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

プラン1 施設業務のための補償

（賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険）

❶基本補償
- ○基本補償（A型）は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- ○見舞費用付補償（B型）は、賠償責任のない場合の見舞金が充実
- ●オプション1 訪問・相談等サービス補償
- ●オプション2 施設の医療事故補償

❷個人情報漏えい対応補償
- ○個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合（おそれのある場合を含みます）に補償

❸施設の什器・備品損害補償
- ○施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- ○施設の現金等も補償

プラン2 施設利用者のための補償

（普通傷害保険）

❶入所型施設利用者の傷害事故補償
❷通所型施設利用者の傷害事故補償
❸施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

（労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険）

❶施設の労災上乗せ補償
❷施設職員の傷害事故補償
❸施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約（「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。

団体契約者
社会福祉法人
全国社会福祉協議会
〈引受幹事保険会社〉 株式会社 損害保険ジャパン

取扱代理店
株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667　FAX：03（3581）4763

HOTeye（ホットアイ）の御意見・御感想をお寄せください。

■ホットアイはどこで御覧になりましたか？

直送・公民館・図書館・銀行・郵便局・学校・役場・
福祉施設・市町村社協・その他（　　）

■何号のホットアイを御覧になりましたか？

2011年度
- ・夏　vol.72　　・秋　vol.73
- ・冬　vol.74　　・春　vol.75

■特に良かったと思われる記事、またその理由をお教えください。

■今後希望される福祉情報などございましたらお教えください。

平成24年度ボランティア・市民活動助成事業応募受付中

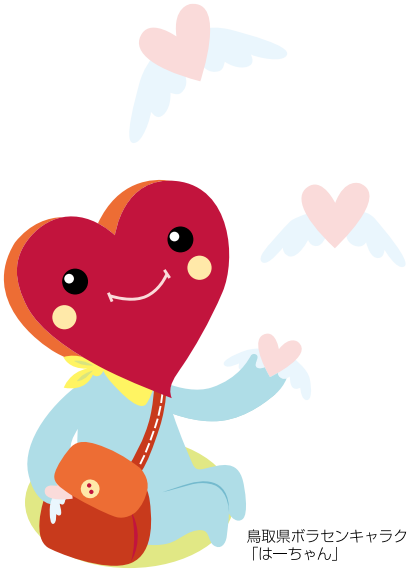
ボランティア・市民活動は、社会問題の複雑化や活動する人々の意識の変化等により、大きく広がりをみせています。

例えば、地域コミュニティの弱体化が問題視される中、地域の中の生活課題を発見し解決していく存在としてボランティアや市民活動に期待が寄せられています。

鳥取県社会福祉協議会では、ボランティア・市民活動を支援するため、県民の方々から寄せられる寄付金を積み立て運用し、その積立金の活用により、県内の草の根的な地域福祉活動に関わるボランティア・市民活動に対して助成しています。

「ボランティアの仲間を増やしたい」「活動の質を高めたい」「活動を継続させるために機材を購入したい」など、ボランティアグループ・市民活動団体を応援します。

■募集期間/平成24年2月10日から
平成24年3月30日
■詳しくは、鳥取県ボランティア・市民活動センターまで
■http://www.tottori-wel.or.jp



鳥取県ボラセンキャラクター
「はーちゃん」

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5（県立福祉人材研修センター内）
URL http://www.tottori-wel.or.jp
e-mail kenshakyou@tottori-wel.or.jp

福祉人材の **求人・求職** の窓口です

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL http://www.torikenshakyo.jp/fukushi/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

ボランティア活動の **幅を広げる** 活動を応援します

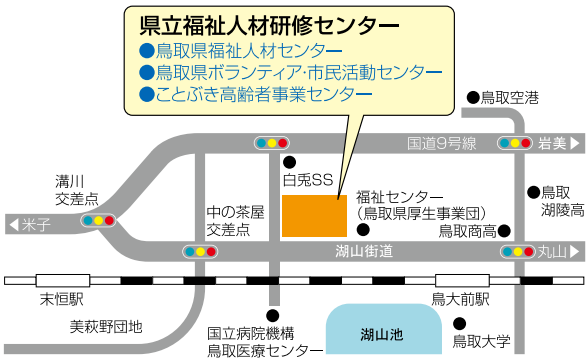
鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL http://www.tottori-wel.or.jp/volunteer/index.html
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

元気な高齢者の **生きがい・社会貢献** を支援します

ことぶき高齢者事業センター

TEL.0857-59-6338 FAX.0857-59-6340
URL http://www.tottori-wel.or.jp/menu/kotobuki/
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。

「HOTeye ホットアイ」第75号／平成24年3月5日発行
発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会
〒689-0201 鳥取市伏野1729-5（県立福祉人材研修センター内）
TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340
印刷／株式会社 日ノ丸印刷

鳥取県男女共同参画推進企業

再生紙を使用しています。

郵便はがき

6 8 9-0 2 0 1

お手数ですが
所定の郵便料金の
切手をお貼り
ください

鳥取市伏野1729－5

鳥取県社会福祉協議会
鳥取県福祉人材センター

HOTeye 編集係　行

・年齢　　代（例：20代）　・性別（男・女）
・職業